

## 『明日の神話』かわら版

発行：特定非営利活動法人 明日の神話保全継承機構 / 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-14-11 小林ビル 9F / <http://asunoshinwa.or.jp>


# TARO LETTER

## 第5回「TAROウォーク」

## 岡本太郎生誕の地「高津」を歩く

NPO法人明日の神話保全継承機構は3月4日、第5回「TAROウォーク」を開催しました。「TAROウォーク」は、岡本太郎のパブリックアートや太郎にゆかりのある名所を訪ね歩き、岡本太郎とパブリックアートへの見聞を広めようと、当NPO法人が主催している活動です。

今回は、太郎の生誕地である川崎市高津区の大山街道沿いを訪ね、東急田園都市線の高津駅構内に掲出された壁画『高津』、二子新地の多摩川のほとりに建立された岡本かの子文学碑『誇り』などを鑑賞・見学しました。

参加したのは当NPO法人会員、太郎と『明日の神話』が大好きな皆さんの計18人。

一行は、まず、高津駅前に集合。太郎の101歳の誕生日である2月26日に掲出されたばかりの壁画『高津』の前に立ち、元川崎市岡本太郎美術館・学芸員の大杉さんの解説に耳を傾けます。「高津の地は太郎の母・かの子の実家大買家があるところ。母の愛した故郷のお祭りに、太郎も積極的に協力していました。『高津』の文字は、1988年に開催された高津区民祭の折に、太郎が描いたもので、それを区民祭の記念テレホンカードとして配りました。水色は多摩川を、赤は大山街道を、緑は高津の自然を表現されたのだと思います」。

その後、1998年には高津青年会議所がテレホンカードに描かれた『高津』の作品を陶板に転写した壁画を制作しており、溝の口駅前の高津市民館に設置しています。このほど掲出された作品は、太郎生誕100周年を記念して、地元の奉仕団体が作品レプリカとして制作したものです。

続いて一駅移動して二子新地駅に下車、多摩川河畔・二子神社の境内にそびえる文学碑『誇り』の前に集合です。『誇り』が制作されたのは1962年。「純白の彫刻がのびやかな曲線を描きながら、凛とした姿を輝かせています。それは多摩川を愛したかの子が、多摩川の流れに向かって、川上をのぞみ、ひらりと立った姿です」と、大杉さんのコメント。文学碑が建立されるまでは資金的にも難航したとのこと。そこで、かの子の支持者であった川端康成、亀井勝一郎、瀬戸内晴美(寂聴)らが働きかけ、全国規模の募金活動となって資金が集まりました。文学碑建立の土地は大買家が町に寄贈したそうです。

その後は、大買家累代の墓石が並ぶ菩提寺「光明寺」、現在は大きなマンションが建つ「大買病院・大買家の跡地」、かの子が多摩川の桜をモチーフにうたった詩が刻まれている文学碑がある「高津図書館」など、太郎とゆかりのある旧大山街道沿いの名所を巡り、大杉さんの解説も加わって、太郎の生誕の地をより深く知ることができました。

当NPO法人は、『明日の神話』が公開されている「渋谷」、岡本太郎が生活と作品制作の場とした「岡本太郎記念館」や「こどもの樹」のある「青山」、さらに今回、訪ねた文学碑『誇り』がある「川崎市高津区」が、国道246号の同軸上にあることから、このラインを「TAROの道」ととらえています。これからも『明日の神話』を中心に、「TAROの道」の魅力を知る、さまざまな活動を展開していきます。



「誇り」の秘話に触れた一同



東急田園都市線高津駅構内の「高津」

## 当NPO法人の法人会員として『明日の神話』をささえている企業・団体をご紹介します。

株式会社伊藤園 / 大塚製薬株式会社 / 五光建設株式会社 / NPO法人渋谷・青山景観整備機構 / 渋谷中央街 / 渋谷道玄坂商店街振興組合 / 渋谷区トリアスロン連合 / 渋谷・東地区まちづくり協議会 / 東京急行電鉄株式会社 / ビナクル株式会社 / 株式会社三河屋油店 / 有限会社宮益エス・ケーブル / 宮益町会 / 楽天株式会社 / リソー有限会社

※当NPO法人は上記の法人会員のほか、個人会員の皆様の支援によって活動しています。法人会員、個人会員ともに、随時、募集しています。

TAROの道「の魅力を巡る」